

## 支援対象競技会：Blackpool Dance Festival 2019

出場部門：オープンボールルーム

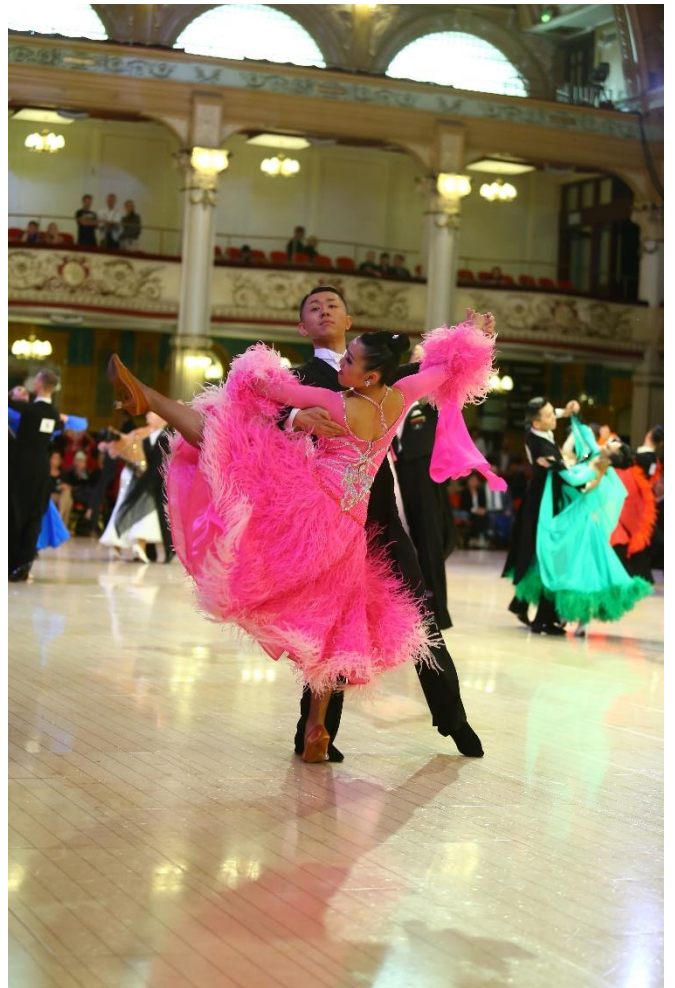
孫 祖博・西村 早織 組

私たちはカップル結成7年目、社会人5年目のアマチュアダンサーです。一橋大学ダンス部を卒部後、総合商社・金融機関へそれぞれ就職し、仕事終わりに練習に励む日々を送っています。今年も昨年に続いてBlackpool に挑戦できる機会を頂戴できましたが、これは昨年同様 JDC イーストジャパンで優勝させて頂き、JDC 様から渡航費支援金を頂いた為です。

5 月末、Blackpool への出発日は月曜日であった為いつも通り出勤した後、急いで空港へ向かい深夜便でマンチェスター空港に到着しました。試合前日の夕方に無事Blackpool に到着、その日は早めに床に就きました。翌日は早めに起床して髪上げ、メイクを終えて会場入りし、ウォーミングアップを行いました。ファイナル入りが確実視されている選手もカップルチェンジしていた為、私たちと同じ予備予選からのスタートであったのが印象的でした。

いよいよエントリー受付開始時間となりました。日本にはない、小さい紙の背番号を受け取り本番に備えます。1 ヒート 20 カップル以上踊るので、ぶつかって慌ててはいられません。日本での練習・試合ではBlackpool のフロアを想定して落ち着いて切り返す練習をしてきました。また、去年の経験に基づき、独特な長方形のフロアでどのように表現をしていくのか、動画を見ながらイメージトレーニングを続けていました。

空いている空間見つけ、雰囲気と音楽を楽しみながら全力を尽くした予備一次予選はあっという間に過ぎていきました。予備一次予選の後、すぐに予備二次予選が始まります。今年はコールではなく電子掲示板張り出しでした。人だかりを押しつけて結果を確認すると、無事に通過できていました。



予備二次予選からはシード選手が加わり、声援やギャラリーも増えてきます。無我夢中で踊り切りましたが、残念ながら夕方からの本戦に届きませんでした。

夕方からの本戦は自分達が勝てなかった選手の良いところを盗もうと、真剣に観戦しました。ボディムーブメント、フットワーク、観客へのアピールなど全てを吸収しようと思いました。予選を経るごとに選手と会場の熱は上がって行き、鳥肌が立つような素晴らしいパフォーマンスを見ることができました。ファイナル終了時は、スタンディングオベーションが会場から自然と沸き起こってきました。素晴らしいダンスを見て感動しましたが、同時に、少しでも近づきたい、追い越したいと更にやる気が出ました。

刺激を受けた私たちは、試合の翌日から、フリー練習フロアでプロ選手に混じって毎日練習に励みました。周りの真剣な雰囲気の中で練習でき、とても良いエネルギーを貰いました。

また、今年アマチュアオープン出場に加えて、プロスタンダード観戦する機会を頂きました。目玉は何といってもアルナス引退後の優勝争い。一次予選から決勝まで二階席から観戦しました。

二階席からはプロ選手のちょっとしたフットワークや目線がよく見え、次の試合に生かしたいことが沢山ありました。特にポーランドのセルギウ・ドロータ組は身長差がありながら、繊細でダイナミックなダンサーであり、身長差がある私たちが目標とするカップルのうちの一組です。彼らのファイナルのパフォーマンスを見ることができて幸せでした。

昨年に続いて今年も Blackpool に来たことで、自分たちの目指すダンスがより明確になりました。日本で日々練習していると、目の前にある試合に追われがちですが、目指すダンサー達を生で見れたことは自分の達のダンサー人生を客観視し、今後を計画する手助けになりました。学んだことを生かして、更に上を目指していきたいと思います。

末筆となりまして恐縮では御座いますが、学生時代から私たちをご指導頂いておりますチョイスダンススタジオの伊藤明・宮本由紀子先生、渡航費補助金をご準備頂きました JDC の皆様、「サラリーマンダンサーだってブラックプールへ挑戦できる！」という理念の下で種々お取り纏め頂きました J.A.L. と大木会長に深く感謝申し上げます。

